

**単機関研究用**

**研究課題名：**

骨粗しょう症が腹部大動脈ステントグラフト治療にあたる影響

**1. 研究の対象**

2013年1月1日から2023年12月31日にかけて腹部大動脈瘤に対してステントグラフト内挿術を行われた方。

**2. 研究目的・方法・期間**

**・研究目的、方法**

腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療は低侵襲（身体への負担が少ない）ではありますが、動脈瘤が残存することにより、エンドリーク（瘤内へ血流が漏れること）による動脈瘤拡大や、治療再介入なども問題となっています。

骨粗しょう症は多くの高齢者が罹患し、骨密度の低下から骨折などを起こしやすい疾患であり、また動脈硬化などへの影響も指摘されております。近年破骨細胞が腹部大動脈瘤に与える影響や、骨粗しょう症の抑制因子が動脈瘤の縮小に関与するとの報告もあり、腹部大動脈瘤への影響も考えられます。

骨粗しょう症による早期のADL低下や骨折によるアライメントの変化、また上記のような因子などでステントグラフト術後の転帰（その後の経過）に影響を与えているかどうかを調べ、治療後の見通しや追加治療の必要性などがわかれば、今後の治療適応判断に貢献できると考えられます。今回、過去のステントグラフト治療症例を振り返り、CTで骨粗しょう症や骨密度低下を判断し（CTにおける骨密度の代替値、病的骨折）、骨粗しょう症群の治療成績を検討します。

**・研究期間** 研究実施許可日 ～ 2026年3月31日

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

情報：患者ID（情報管理に使用）、年齢、性別、身長、体重、診断名、既往歴、合併症、血液検査結果、尿検査結果、画像検査結果（X線、CT、MRI）、治療歴（手術・周術期関連、治療内容、治療効果、遠隔期成績）

試料：なし

**4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報等が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

《照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先》

住 所：〒849-8501

佐賀県佐賀市鍋島5丁目1番1号

佐賀大学医学部附属病院 心臓血管外科

担 当 者：心臓血管外科・助教・林奈宜（研究責任者）

電話番号：0952-34-2345

### 【この研究の試料・情報の取扱い】

倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした情報等には個人を識別できないよう処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。

このお知らせは研究実施許可日より2026年3月31日までの間、研究対象となる患者さんへの公表を目的に、佐賀大学医学部附属病院臨床研究センターホームページに掲載しているものです。

佐賀大学医学部附属病院臨床研究センター <http://chiken.med.saga-u.ac.jp>

なお、この研究内容は佐賀大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会で審査を受け、研究機関の長の許可を受け実施されています。臨床研究センターHPでは、佐賀大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会に関する他の情報等も公表していますのでご覧ください。